

ことわざ

●指導目標

- ことわざをとおして先人の知恵を知るとともに，その由来や表現の仕方に関心をもつ。 言語
- ことわざゲームやクイズをすることを通して，語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ。 言語

●教材について

子どもたちは，「犬も歩けば棒に当たる」「猿も木から落ちる」のように，すでにいくつかのことわざを覚えており，日常会話の中でも聞いたことがあるはずである。それらのことわざは，言葉の調子がよいことや言い方が簡潔でおもしろいことから，子どもが自然に慣れ親しんできたものである。

本教材では，ことわざをとおして，調子のよい言い回しによってさまざまな教訓を伝えようとした先人の知恵を知り，その由来や表現について学習する。子どもなりに納得ができる内容も多く，興味をもって「ことわざ集め」をするに違いない。また，「数字」「体」「生き物」など身近なものが使われていることが多く，ゲームやクイズにしたり，ことわざの一部を言いかえてことわざ作りを楽しんだりする活動も考えられる。ことわざは，人々の生活の知恵から生まれ，長く伝えられてきた教訓や，生活の知恵を含む短い言葉である。「いろいろな時代から語り伝えられてきた」という特性をふまえ，ことわざについて身近な人に聞く活動も大切にしたい。

ここでは，以下のことに留意し，指導にあたっていきたい。

（１）ことわざを集める。

ことわざの学習に入る前に，身近な人からことわざについて聞く活動をする。お父さんやお母さんが子どものころ，どんな場面でどんなことわざを言われた経験があるか調べることによって，語り伝えられてきた言葉であることが実感できるであろう。

（２）ことわざって何だろう。

集めたことわざから，ことわざの特質を知る。ここでは，次の２つの点をおさえる。

- ・昔から言い伝えられてきた言葉であること。
- ・教訓や知識などが，短く，リズムよく表されていること。

（３）似た意味のことわざ・反対の意味のことわざ

似た意味のことわざを見つける活動は，表現の仕方や意味を考えさせる効果がある。また，反対の意味のことわざを見つける活動では，同じ場面でも見方によってはいろいろな考え方があることに気づくであろう。さらに，これらの活動は，ことわざ作りのヒントになるに違いない。

●学習指導計画（全２時間）

展開・時	学習活動	留意点・評価基準及び方法
第１時	○ 身近な人に聞いてきたことわざを発表し合い，ことわざの特質を知る。 ○ 教材文を読み，ことわざから得られる教訓や表現の特徴について話し合う。	関：ことわざに興味をもち，意味を知ろうとしている。（発言） ○ ことわざが使われる場面を日常生活に即して考えさせる。
第２時 （本時）	○ 似た意味のことわざや反対の意味のことわざを見つける言葉遊びをする。 ○ オリジナルのことわざを作る。	言：いくつかのことわざの意味や使い方，表現の特徴などを理解している。（ノート・発言）

● 本時の展開（本時 2 / 2）

目標

- ・似た意味のことわざや反対の意味のことわざを当てる活動をとおして，ことわざの意味や使い方，表現の特徴などの理解を深める。
- ・自分の好きなことわざを選び，新しい意味のことわざを作る。

● 展開例

学習活動	指導上の留意点	評価・支援
1 似た意味のことわざを見つける。 A さるも木から落ちる の仲間 B ねこに小判 の仲間 弘法にも筆のあやまり 犬も歩けば棒に当たる 豚に真珠 ぬかにくぎ 馬の耳に念仏 かっぱの川流れ かえるの面に水 上手の手から水がもる	○ ことわざのカードを作っておくと整理しやすい。 ○ どんなところが似ているか説明させる。	言： 二つ以上のことわざを取り上げて，共通点を説明している。（発言） ○ 表現上の共通点を取り上げた場合は大いに認め，意味を考えるよう助言する。
2 反対の意味のことわざを見つける。 善は急げ 月とすっぽん へたの横好き 渡る世間に鬼はない 一石二鳥	○ 似た意味のことわざを黒板に貼り，共通する意味をまとめる。 ○ 左のことわざと反対の意味のことわざを右から見つける。 二兎を追うものは一兎をも得ず どんぐりの背くらべ 人を見たらどろぼうと思え 急がば回れ 好きこそもののじゃうずなれ	言： 反対のことわざを指摘し，意味の違いを説明している。（発言） ○ 同じ場面でも見方を変えると全く逆の意味になることをおさえる。
3 自分の好きなことわざを選び，一部を少し変えて，おもしろい表現のことわざを作る。 例： ねこに小判 豚に真珠 馬の耳に念仏 (1) に (2) (2) には値打ちのあるもの (1) は (2) の値打ちがわからないもの	○ ことわざの一部を少し変えて，新しくおもしろい表現にする。 ア：表現上の形式をまねする。 イ：入れる言葉を考える。 ウ：自分なりに意味を作る。	関： 自分の好きなことわざを選び，表現の仕方をまねしようとする。（ノート・発言） ○ 表現上の形式が難しい場合，どの言葉をマスキングすればよいか助言する。
4 作ったことわざの意味を表し合い，どんな意味になるか考える。	○ クイズ形式で，どんな意味になるか出題させる。その際，自分なりの答えを用意しておく。	

ことわざヒントカード

氏名〔 〕

さるも木から落ちる 木登りの上手なさるも、ときにはあやまって木から落ちることもある。このことから…。	ねこに小判 ねこに小判をやってもねこは何にも感じない。このことから…。
弘法にも筆のあやまり こうぼう 書道の名人といわれる弘法大師のような人でも、ときには書きあやまることもある。このことから…。	犬も歩けば棒に当たる 犬も出歩くと棒で打たれることもある。このことから…。
豚に真珠 ぶた しんじゆ ぶたに真珠を与えても、豚にはそのありがたみがわからない。このことから…。	ぬかにくぎ やわらかいぬかにくぎを打っても、手ごたえやき目が無い。このことから…。
馬の耳に念仏 ありがたい念仏を馬に聞かせても、馬にはそのありがたみがまったくわからない。このことから…。	かっぱの川流れ 水の中では自由自在に思う存分泳げるかっぱでも、ときにはおぼれることもある。このことから…。
かえるの面に水 かえるの顔にみずがかかっても、まったくかえるは気にしない。このことから…。	上手の手から水がもる もれないように上手にすくった水が手のすきまからもれることがある。このことから…。
善は急げ 人の気持ちは変わりやすいので、よいと思ったことはすぐに実行しなさいという教え。	二兎を追うものは一兎をも得ず ふと 同時に二羽のうさぎをとろうとすると、集中できないので二羽ともとりにがしてしまう。このことから…。
月とすっぽん 月とすっぽんは丸くて形はよく似ているが、月はすんだ空にあって、すっぽんは水の底のどろの中にいる。このことから…。	どんぐりの背くらべ せ 大きさも形もだいたい同じどんぐりどうしが背比べをしても、どちらが大きいかわからない。このことから…。
へたの横好き 専門でないのに、また下手なくせに、好きで熱心にすること。	人を見たらどろぼうと思え 人間は、だれでも簡単に信用してはいけない、といういましめ。
渡る世間に鬼はない わた おに 世の中は暮らしにくいように見えても、こまっているときは助けてくれる人が必ずあらわれるものだ。	急がば回れ 急いでいるときは、ちょっとあぶないと思っても、つつい近い道、はやく終わる方法を取りたくなるが、それがかえって失敗のもととなる。このことから…。
一石二鳥 一つの石を投げて、同時に二つの鳥を打ちおとすこと。このことから…。	好きこそもののしょうずなれ 自分の好きなことは、だれにいわれなくてもどんどん熱心にするので、上達するものだということ。